協同ゲームにおける交代制ルールの産出 (2)

紙コップ積み立て課題を用いて

○藤田 文

(大分県立芸術文化短期大学)

キーワード: 協同ゲーム, 交代制ルール, 大学生

The production of the turn-taking rule of college students in the cooperative game

Aya Fujita

(Oita Prefectural College of Arts and Culture)

Key Words: cooperative game, turn-taking rule, college student

目 的

協同場面における自己と他者の関係調整はどう発達し、その発達にはどのような能力が必要になるのだろうか。遊び場面における幼児の仲間との関係調整には、規準が明確な交代制ルールの産出が重要だと示されている(藤田,2015)。目的が明確な協同場面における関係調整に関しては、真ん中にビー玉が入った四角の枠があり両側からひもを調整し、子どもの前の穴にビー玉を落せば成功、同時にひもを引いて枠が外れてビー玉が側面に落ちれば失敗という協同行動が必要なビー玉落としゲーム(Madsen,1971)場面を用いて検討された(藤田,2018a)。その結果、幼児の二人組のペアの協同場面における交代制ルールはほとんど産出されなかった。そこで、大学生を対象として同様の実験を行った結果、言語的な取り決めがなくてもすべてのペアで交代制ルールが産出された。1回ずつ交互にひもを引く役割をとることが、二人の暗黙の了解となっていることが示唆された(藤田,2018b)。ビー玉ゲームではひもを引くと緩めるという役割の交代で、同時に同じ行動をすると失敗する状況だった。それでは同時に同じ行動をするが偏りのある役割の場合は交代制ルールを産出するのだろうか。本研究では、同じようにひもを引くが1本のひもを引くか2本のひもを引くかというゲームの成否に無関係な役割の偏りを交代するのかどうかについて検討し、協同ゲームにおける関係調整の基礎的データを得ることを目的とする。また協同ゲームの成否と交代制ルール、ゲーム中の相互交渉、コミュニケーションスキルや相互協調的自己観との関連を検討する。それにより、幼児に必要な関係調整のあり方や交代制ルールの調整方略やコミュニケーションスキルが明らかになると考えられる。

方 法

対象者: 大学生20名と成人4名(21歳~24歳)の計24名。全員女性。
課題: 紙コップ積み立てゲーム(Daseyら,2016)(図1)。
手続き: 日常親しい二人組で実験を行った。テーブルに向き合って座り、紙コップ積み立て課題を行ってもらった。この課題の目標は、3本のひもがついた1個の輪ゴムを使い、ひもを引っ張ることで輪ゴムを伸ばし、紙コップを輪ゴムに挟んで移動させ、6個の紙コップを3段にできるだけ早く積み立てることだった。二人で自由の話し合いをしてよいことを教示した。実験の様子はビデオ録画された。
実験終了後、質問紙に記入してもらった。役割の成功度と役割の平等性について満足の程度を7段階で評定してもらった。次に、コミュニケーションスキル尺度(藤本・大坊,2007)24項目(「自己統制」「表現力」「解読力」「自己主張」「他者受容」「関係調整」)を7段階で評定してもらった。また、相互独立の一相互協調的自己観尺度(高田,2000)20項目(「個の認識」「独断性」「親和順応」「評価懸念」)を7段階で評定してもらった。

結 果

紙コップ積み立て課題は、大学生にとって困難な課題ではなく、どのペアも完成できた。完成までの時間を測定した結果、最短で95秒、最長で223秒だった。2分未満を短時間群(5ペア)、2分以上を長時間群(7ペア)とした。

(1) 交代制ルールの産出: ひもを1本持つ役割と2本持つ役割に関する交代制ルールを分析した結果、12ペア中4ペアで交代がみられた。この4ペアはすべて長時間群だった。そのうち2ペアは1回のみ、2ペアが2回以上の交代だった。短時間群の5ペアに交代はみられなかった。

(2) 交代制ルールの産出過程: 半分の4個目になった時に交代したのが2ペアで、2本持っている者が渡すペアと1本持っている者が取るペアがあった。残りの2ペアは、1本持っている者が、2本持っている者の1本に手を伸ばし取り上げて、ひもの向きを調整しようとしている者だった。

ひもを持つ役割の交代は、平等性を保つための交代制ルールと課題遂行がうまくいかない場合に調整するための交代制ルールが産出されることが示された。

(3) 協同ゲーム遂行とコミュニケーションスキル・自己観の関連: 短時間群と長時間群を比較してt検定を行った結果、役割の満足感が短時間群で有意に高い傾向

($t=1.95, df=22, p<.10$)、親和性が長時間群で有意に高い傾向($t=2.04, df=22, p<.10$)が示された。指示、確認、かけ声の行動やその他の自己観、コミュニケーションスキルに有意差はなかった。

考 察

成否に無関係な役割の偏りの場合、交代制ルールが産出されない場合が多いこと、交代制ルールの産出には平等性確保のものと課題遂行調整のものがあることが明らかになった。幼児の課題設定や交代制ルールに基づく関係調整の発達の分析にこのような視点が必要であることが示唆される。

引用文献

Dacey, J.S. et.al. (2016). Your Child's Social and Emotional Well Being Wiley Blackwell

科学研究費基盤研究 (C) 課題番号17K04396の補助を受けた

図1 紙コップ積み立て課題